

Case 350

過敏性肺炎

過敏性肺炎

原因、画像の成り立ち、治療

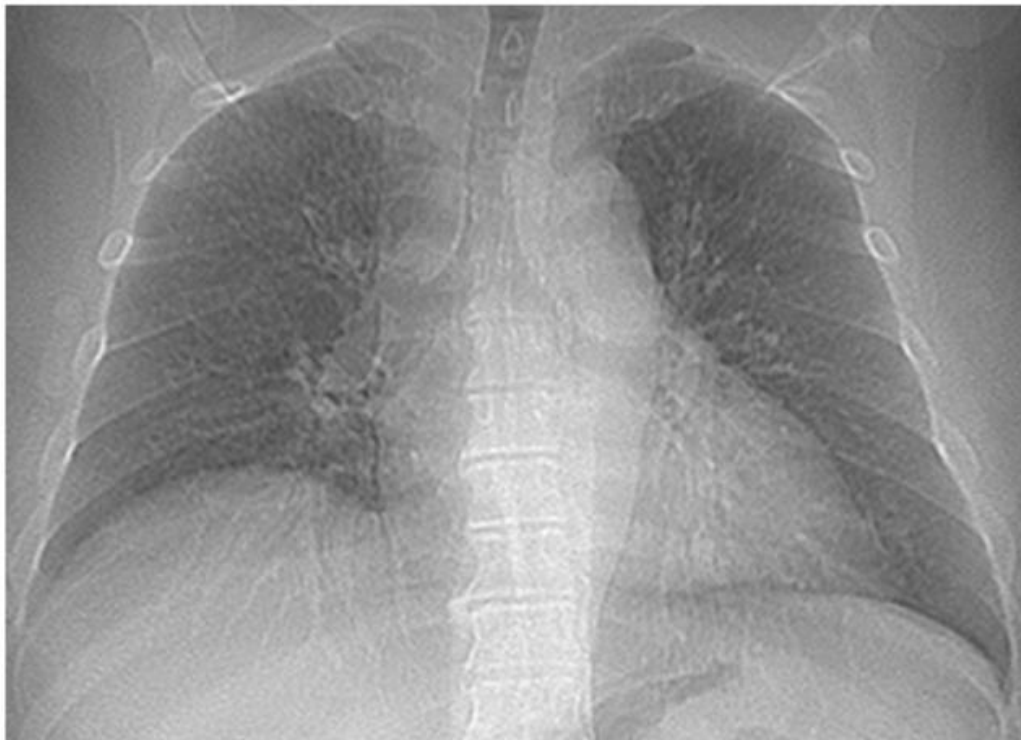
50代 男性

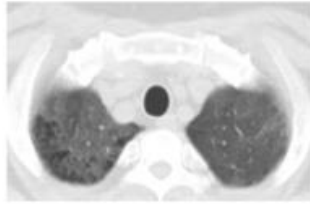
- 1年前義理の父親が近医にて肺炎にて死去（詳細不明）
- このころに転職し現在の会社に入職し、リフト操作などに従事。
特殊な物質は担当せず。引っ越しや温泉旅行などなし。ペット飼育歴なし。
- **喫煙歴 20本/日 × 30年**
本年2月一度発熱あり。
- 以降さらに体調が悪化し、3月初旬の当院受診となる。
- **昨年末より紙たばこから電子たばこに変更したが、
以降にすぐ咳嗽と呼吸苦が出現する**

	3/4	3/9	3/11
--	-----	-----	------

診断の流れと治療

- PO₂ 56.2 mmHg PCO₂ 29.4mmHg PH 7.409 WBC 10380/mm³
SpO₂ 84% (room air)→94% Nasal 2L
- びまん性肺疾患→急性呼吸不全 (アレルギー性肺疾患→過敏性肺臓炎疑い)
- ステロイド使用
- 3/11: メチルプレドニゾロン1000mg + NS100mg/D x 3Ds、DIV
↓
- 3/14: プレドニン45mg/D、PO以降に効果みてテイパリング予定
- ステロイド・パルス療法より開始へ
- 維持量は体重が92.3kg →0.5mg換算にて45mgプレドニンにて開始へ





A



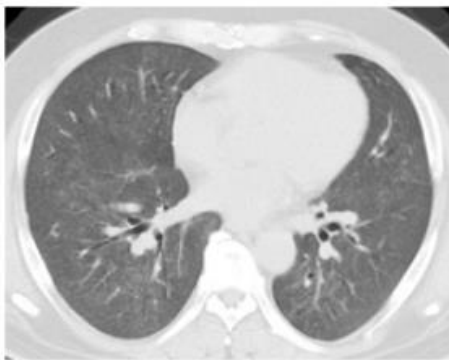
B



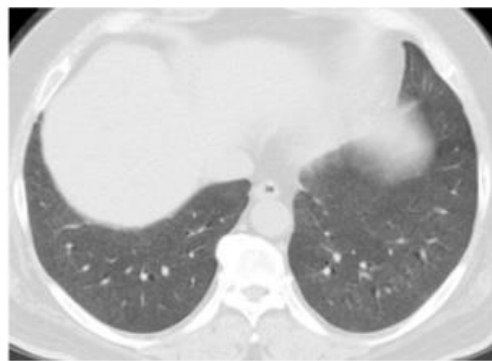
C



D



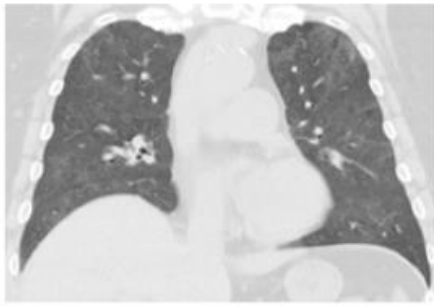
E



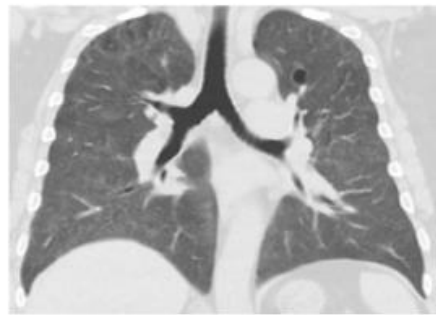
F

全肺にスリガラス状陰影

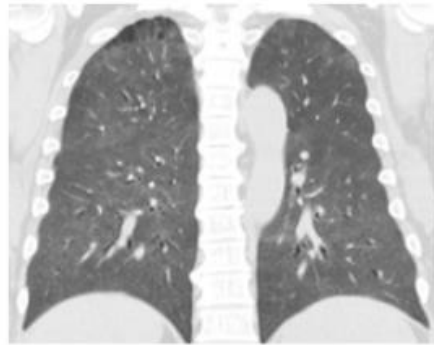
肺尖に気腫性の汎小葉性の透亮像



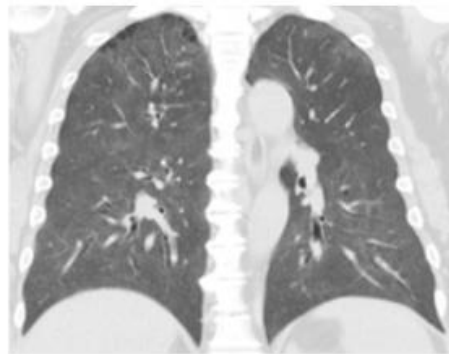
A



B

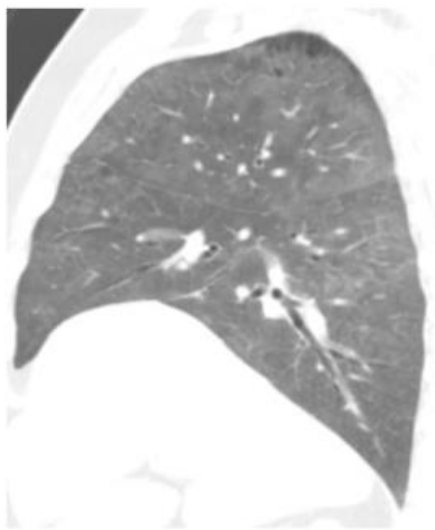


C



D

全肺にスリガラス状変化



A

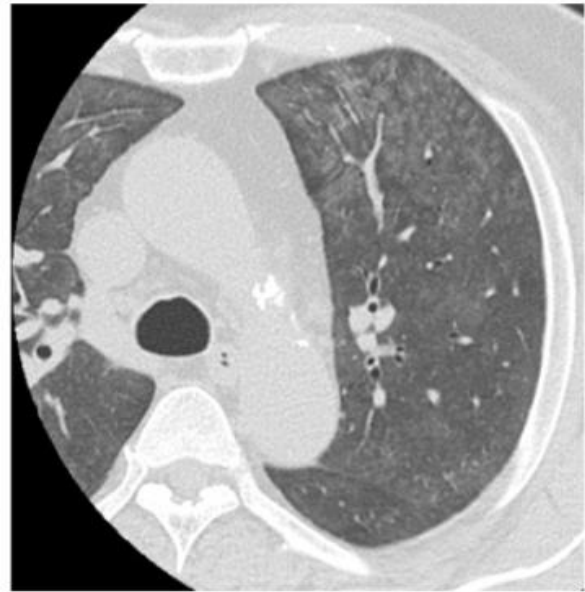


B

肺尖の気腫性の透亮像を除いて全肺にスリガラス状変化がみられる



A



B

高分解能CTで小葉中心性から汎小葉性のすりガラスが広がっている。
経細気管支の変化

過敏性肺炎

- 抗原が入り込む細気管支、肺胞を主座とする病変
- 抗原の暴露期間により、急性、亜急性、慢性に臨床的に区分
- AllergyのIII型(抗原-抗体複合体)、IV型(免疫細胞、肉芽腫)に相当
- 急性、亜急性は III型 慢性はIV型
- 本例は電子タバコが発症に起因するとすれば3か月の暴露で亜急性

Ismail T, McSharry C, Boyd G (May 2006). "[Extrinsic allergic alveolitis](#)". *Respirology*. **11** (3): 262-268.

過敏性肺炎の画像

- 急性、亜急性：小葉中心性から汎小葉性のすりガラス
- 慢性：小葉中心性の顆粒から小結節、網目状から蜂巢性

過敏性肺炎の病理

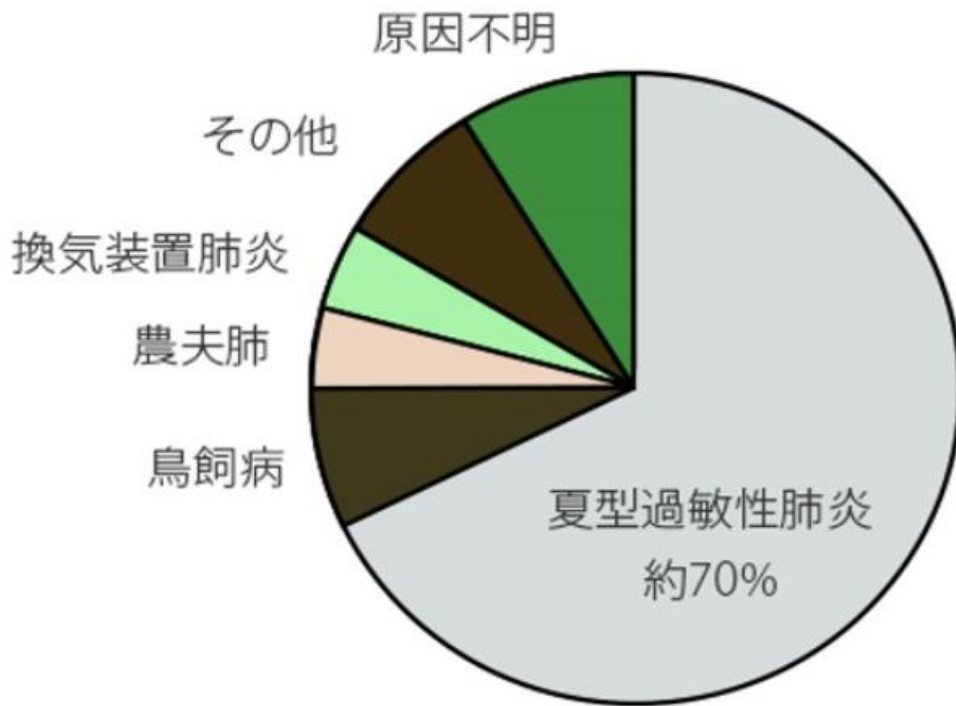
- 小葉中心性から汎小葉性のスリガラス(急性、亜急性)
 - T細胞、プラズマ細胞の浸潤
 - 抗原に対するIgG, Ig Aの放出
 - 抗原と抗体複合体による血管透過性の亢進
- 網目状から蜂巢性変化(慢性)
 - 小葉間隔壁：肺胞壁の肥厚
 - 小葉、肺胞：破壊による虚脱、線維化

Selman, Moisés; Pardo, Annie; King, Talmadge E. (2012-08-15). "[Hypersensitivity Pneumonitis: Insights in Diagnosis and Pathobiology](#)". *American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine*. 186 (4): 314-324.

過敏性肺炎の症状、診断

- 空咳、呼吸苦、息切れ 疲れ、体調悪化
- 原因となる抗原の同定
 - 鳥の羽、カビ、枯草、化学物質、噴霧
- 日本では湿った木材やマットの *Trichosporon cutaneum*
トリコスポロン

日本で発症する過敏性肺炎の約7割は、
トリコスポロンという真菌が原因となる夏型過敏性肺炎



(出典: 日本内科学会誌89巻9号,P11-21)

原因となるトリコスポロンという真菌は6～10月にかけて高温多湿な古い家屋などに生育

住人がトリコスポロンの真菌胞子を繰り返し吸入することによって発熱、せき、喀痰などの症状が発症

気温の上がない秋田県以東の寒冷地域では、トリコスポロンが生育せず、夏型過敏性肺炎の発症はほとんどありません

電子タバコが原因の本症例は原因不明の区分に相当

過敏性肺炎の治療

- [Corticosteroids](#) or [immunosuppressive medications](#).
- Anti-fibrotic drugs (pirfenidone and nintedanib).
- [Pulmonary rehabilitation](#).
- [Oxygen therapy](#).
- 本例では ステロイドパルス療法とその維持療法で治療がおこなわれた

Jameson JL, Kasper DL, Longo DL, Fauci AS, Hauser SL, Loscalzo J (2018).
[Harrison's principles of internal medicine](#) (20th ed.). New York

English page

2024.8.23